

平成28年度事業計画案

平成28年度事業計画について

1. 方針

2016年の方針として本会設立から一貫して継続しております青少年の自立心を養い、自ら行動する力（積極性）、仲間を思いやる心（協調性）、コミュニケーション力（社会性）等を培い、その機会の場を広く提供していかうとする方針に変わりはありません。

国内で実施する野外活動・交流活動事業、外国で実施する諸外国の青少年との国際交流事業を通して青少年同士が互いに積極的に交流し、異なる世代、異なる社会に生活している外国の青少年と交わりながらの共同生活、共通体験は、日本の青少年にとって将来、有意義な経験となっていくと確信しています。又、このような国際交流の場を日本国内の活動事業を通して多くの青少年に体験してもらえよう、諸外国からの青少年の受け入れも積極的に実施してまいります。

より高い国際理解と広い視野を育成し、この目的に即した研修・教育の場として適切かつ安全に体験できる機会を継続的に提供していくことこそ本会の責務と考えます。

2. 平成28年度の重点課題

『夏休みと春休みの海外研修交流事業』並びに『青少年・国際交流キャンプ』と『ちびっ子探検学校ヨロン島』への参加者の内、現行の行政・学校からの推薦派遣は引き続き受け入れてまいります。小学校での英語学習の増加に伴い、小学生を対象にした国内事業への外国人青少年の積極的な参加受け入れが必要になってくるものと考えます。また、海外研修交流事業においても昨年度からスタートした文科省の助成制度（トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム 高校生コース）などを活用し、行政や保護者の皆様からの要望に答えられるような事業設定など内容の充実を一層図ってまいります。28年度は学校、行政はもとより英語学校等にも引き続き広報・告知活動を拡大してまいります。

課題 1：東京並びに近郊を中心とした事業PR活動の充実
小中高等学校(私立)、英語学校等を中心に

課題 2：ホームページのリニューアル
各プログラムの活動内容（参加者の声）を充実させた形式へ。

課題 3：公立中高校へのアンケート調査拡大
海外派遣に関するアンケート調査と資料送付

3. 平成28年度 青少年交流活動計画の概要

国内交流活動事業

8月 青少年・国際交流キャンプ（4泊5日）

実施地区：静岡県立朝霧野外活動センター

実施日：8月1日（月）～8月5日（金）

対象：小学3年生から中学3年生

募集人員：100名（日本人80名、外国人20名）

内容：富士登山、各国の遊び体験、野外炊飯、異文化交流他

8月 小笠原アドベンチャースクール（5泊6日）

実施地区：小笠原諸島（父島、南島）

実施日：8月17日（水）～8月22日（月）

対象：小学4年生から中学3年生

募集人員：30名

内容：海の自然体験（シュノーケリング、シーカヤック、海亀飼育体験）
森の自然体験（ジャングルトレッキング）
創作活動（タコノ葉細工）、野外炊飯、星座観察等

12月 楽しさ丸ごと冬体験 in 北海道（5泊6日）

実施地区：札幌、旭川、名寄

実施日：12月25日（日）～12月30日（金）

対象：小学3年生から中学3年生

募集人員：20名

内容：かまくら作り（宿泊）、雪原体験、牧場体験他

3月 ちびっこ探険学校 ヨロン島（6泊7日）

実施地区：鹿児島県大島郡与論町

実施日：3月27日（月）～4月2日（日）

対象：小学2年生から6年生

募集人員：日本人150人、外国人120名

内容：遊びを通じた国際交流体験、大筏作り
ハーレー船競争、島内ハイク、海水浴

事前説明会の開催（青少年国際交流キャンプ、ちびっこ探険学校ヨロン島象）

実施予定地区：仙台、福島、新潟、東京、静岡、名古屋、京都、岡山
高松、広島、福岡

海外派遣交流事業（小学生～高校生）

夏休み	イギリス（18日）	語学研修とホームステイ
	カナダ（18日）	語学研修とホームステイ
	フィリピン（10日）	語学研修とドミトリーステイ
	フィジー（9日）	無人島キャンプとホームステイ
	サイパン（8日）	自然体験とホームステイ
	シンガポール（18日）	学校体験とホームステイ
	オーストラリア（18日）	学校体験とホームステイ
	（12日）	学校交流とホームステイ
	（8日）	自然体験とホームステイ
	モンゴル(10日)	野外活動と文化交流とホームステイ
年末休	サイパン（6日）	ホームステイ
	オーストラリア（6日）	クリスマスホームステイ
	フィリピン（6日）	語学学校
	カンボジア(10日)	ホームステイ
春休み	イギリス（11日）	語学研修とホームステイ
	カナダ（11日）	語学研修とホームステイ
	フィリピン（10日）	語学研修とホームステイ
	フィジー(11日)	無人島キャンプとホームステイ
	オーストラリア（11日）	学校交流とホームステイ
	（10日）	自然体験とホームステイ
	ニュージーランド（11日）	学校体験とホームステイ

冬季青年海外派遣事業（大学生対象）

カンボジア（10日）	ホームステイ、小学校交流ワークショップ ボランティア活動
------------	---------------------------------

プログラム内容（フィリピンのコースを除き、ホームステイは共通）

（1）語学研修と文化交流（イギリス、カナダ、フィリピン）

イギリス、カナダのコースはホームステイをしながら語学学校への通学と学んだ英語を実際に試す場として、日本文化を紹介する会を開催するとともに、ボランティア体験・老人ホームでの交流会等（カナダ）を通して異なる文化も体験します。

又、フィリピンの語学学校はドミトリーへの滞在型として実施し、マンツーマンを基本とした研修になります。語学への学習意欲の向上が今後青年層、低学年に高まることが予想されるため、本会としても新たな研修の場として取り入れてみることにしました。

(2) 学校体験交流（シンガポール、オーストラリア、ニュージーランド）

短期間ではあるが現地の学校に通学し、同世代の多くの外国青少年と交流を通して異文化体験をします。又、学校において日本を紹介する会を開催し、相互理解活動を主催します。滞在中にシンガポールでは独立記念式典が催されるため、日本では味合うことのできない体験も得ることができます。。

(3) 生活文化体験（オーストラリア、カンボジア、サイパン）

オーストラリアではホームステイをしながら地域の活動に参加したり、学校を訪問して日本の文化を紹介しながら交流をします。小学生は小学校を、中高生は中高一貫校を訪問します。又、協力関係機関であるバサースト市の市長へも表敬訪問もおこないます。

カンボジアではポルポト時代の負の遺産、プノンペン市内のゴミ捨て場見学、不発弾・地雷処理政府機関からのレクチャー、アンコール遺跡群の見学を行うとともに、農村では高床式民家でのホームステイ（4日間）、小学校での交流会（2日間 歌、折り紙、お絵かき、スポーツ）を開催します。

サイパンでは受け入れ機関であるサイパン市への表敬訪問（市長）、受け入れ家族達との交流会（双方とも歌、踊り等を披露）を通して異なる文化、生活を体験します。サイパンは海外派遣としては“初級”クラスのため、遊びを通じた活動を中心に企画されています。

(4) 野外活動体験（モンゴル、フィジー）

モンゴルでは現地青少年と合同のサマーキャンプに参加し、浸食を共にしながら交流を図ります。また、遊牧民宅を訪問し、生活文化を体験（乳絞り、ゲルの設営体験、乗馬）することにより生きる術を身を持って体験します。

フィジーでは無人島に3日間滞在し、自炊をしながら南太平洋の自然を体験します。又、物の大切さ、自然の厳しさを直接体験しながら自分の周りあるものの大切さとありがたさを学びます。

(5) 冬季青年海外派遣：カンボジアホームステイ&小学校交流ワークショップ、ボランティア活動

この企画は獨協大学、慶応大学、同志社大学のボランティアサークルの海外ワークショップを本会が協力する形で実施します。

2012年から始まり今年度で6回目を迎える予定です。参加人数は2015年3月より1回40名定員としました。

説明会の開催（夏休み海外派遣、春休み海外派遣対象）

実施予定地区：仙台、福島、新潟、東京、静岡、名古屋、京都、岡山
高松、広島、福岡

青年ボランティア養成・国際交流協力者

青年ボランティア養成(国内)は、実習対象を国内事業の『青少年・国際交流キャンプ』、『ちびっこ探険学校ヨロン島』として、前期(6月～9月)、後期(11月～4月)の2回実施します。養成対象は18歳以上として、原則東京で養成講座を開催します。講座では、青少年引率時の安全管理(救急法)やリスクマネジメント、レクリエーション技術、子どもとの接し方(集団活動における指導法、いじめ対策など)、健康管理(アレルギー対策)など幅広い項目を数回の講座に分けて学びます。

海外派遣の引率ボランティア養成(国際交流協力者)も年2回(6月,12月)実施します。上記の講座に加え、さらに判断力と渉外力(英語)が求められるため、この点を特に留意して即戦力となる人材を募集し、講座を実施します。

尚、青年ボランティア養成講座(国内)を終了した者たちへのチャレンジの場としても海外引率は良い体験となるため、海外派遣引率ボランティア養成への参加も促しています。

4. 平成28年度 収支予算について

1. 収入予算

平成27年実績予想を基本に作成。

2. 支出予算

平成27年度支出実績を基本に作成し、事務所賃料、役員給与、役・職員賞与を計上した。

3. 問題点

平成27年度並又はこれを超える収支が今後も続くようであれば、現在支払うことが出来ない費用並びに、新規職員の採用等が現実的になると思われますが、海外でのテロ行為や伝染病(鳥インフルエンザやデング熱など)などの不安定要素のリスクが年々高くなってきているのも事実ですので、事業収支にも大きな影響がでる事も考えられます。

世界情勢を常に把握し、そのための対策も事前に立てておく必要があると考えます。